

企業・実行する企業

埼玉産業人クラブは10月30日、ロイヤルパインズホテル浦和(さいたま市浦和区)で「第45回埼玉県産業振興懇談会」を開いた。東欧だけでなく中東でも勃発した不安定な国際情勢、エネルギー・原材料価格の高騰、人手不足など、企業を取り巻く環境が大きく変化の中で「GX・CE(グリーン・トランスフォーメーション・サーキュラーエコノミー)を支える企業・実行する企業」を統一テーマとして、企業経営幹部4人が自社のGX・CEについて、現在の取り組みや将来点などについて語り、重要性を参加者に訴えた。

経営幹部は語る

当社は産業廃棄物の収集運搬、中間処理をする企業です。企業理念に「『当たり前』を確実に、しっかりと」を掲げ、循環型社会を推進して、産業廃棄物処理業をリサイクル産業にするため、基本をおろそかにせず、実直に取り組んでいます。環境管理の国際規格「ISO14001」をはじめ、優良産業処理業者の認定を取得しています。

経営幹部は語る

当社は1938年に設立し、さいたま市に本社を構えています。井戸を掘削するく井工事と特殊土木工事、地質調査を手がけており、井戸にかかわる工事と維持管理が主要な事業です。

東武商事 常務執行役員 岡崎 守氏



高額の分析機器や環境計量士などの人材がいなくてできません。当社では環境を整え、いよいよ本格的に始めました。また、社会貢献として川崎市や松伏町と災害協定を結んでいるほか、地域のボランティア活動への参加や企業・団体から工場見学を受け入れ、小学校への出前講座を実施しています。国連の持続可能な開発目標(SDGs)にも取り組み、「埼玉県環境SDGs取組宣言」や「埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム」に参画しています。

有機汚泥は堆肥・エネルギーに

1などの容器を洗浄して回収箱に入れてもらい、ポイントを付与する仕組みです。それを選別、破碎、洗浄、ペレット化して再びシャンプー等の詰め替えパウチをはじめ、カードケースやアクセサリーなど再生商品に還元します。当社はプロジェクトの破碎・洗浄の工程を担っています。

現在、使用済みパウチを新しいパウチに還元する道筋はできてはいますが、全てを容器として再利用する水平リサイクルまでには至っていません。単純にリサイクルに回せない課題があるためです。パウチなどは洗浄しにくい形状で、容器に食料が残ります。残留物のアレルギーのリスクもあります。

これらの課題に対し、破碎で前処理し特殊洗浄をして、水平リサイクルができるようユニリーバなどと連携して取り組んでいます。「使用済み容器の破碎・洗浄の先端技術確立事業 with UMIIE」として、埼玉

プラ資源循環プロジェクト推進

①1983年②4800万円③産業廃棄物処分業④埼玉県松伏町⑤048・992・1039

日さく 技術開発本部部長 高橋 直人氏



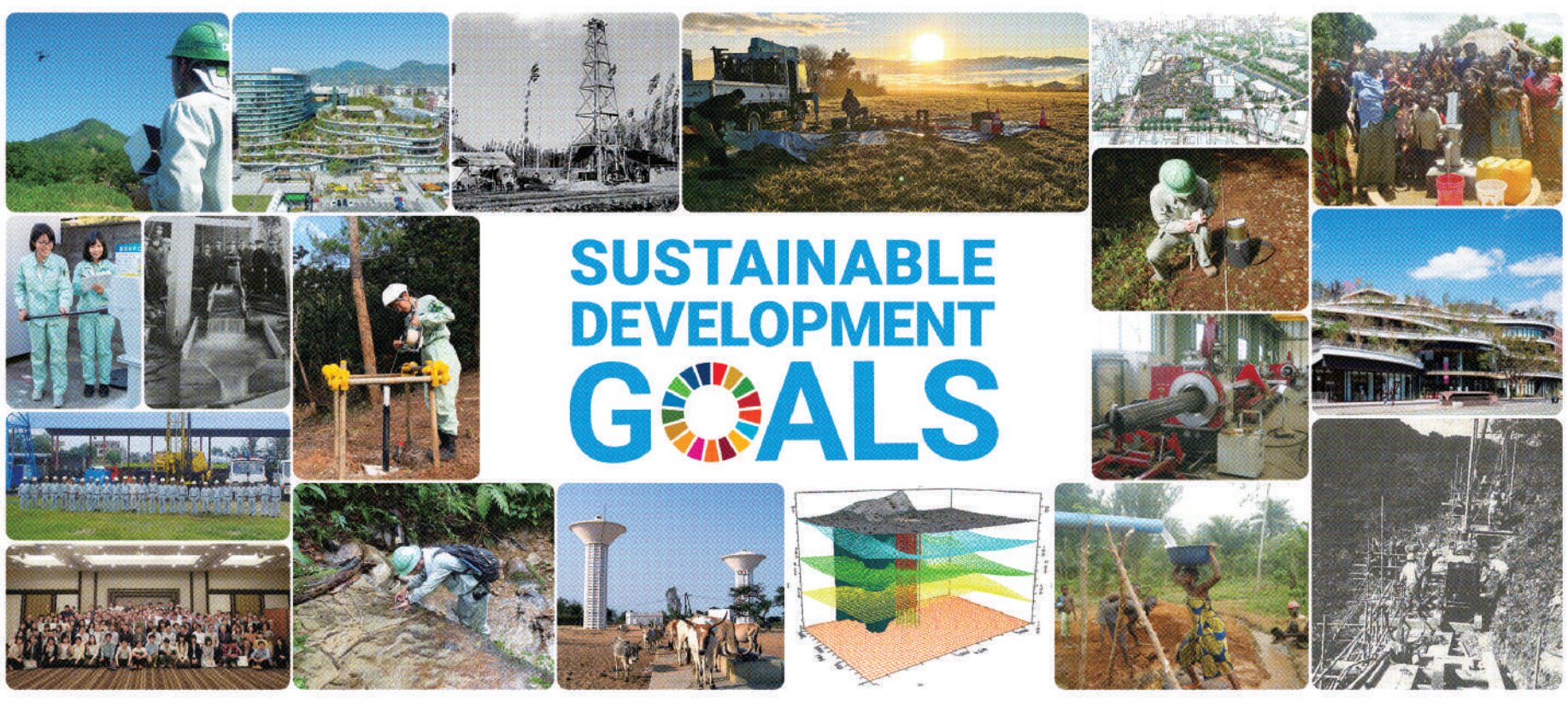
それでは地下熱はどうでしょう。約10m以上の深さの地中の温度は夏でも冬でも、昼でも夜でもほとんど一定です。そこで地下熱を活用し、気温が高い夏には地中に熱を逃がし冷房のような効果を得る。逆に冬には地下の熱を得ることで、暖房のような効果を得られる仕組みを構築しました。

空調に地下水・地下熱を活用

熊本の大规模複合施設で実証

こうした取り組みにより、2021年度の実績としては、熱源起因の二酸化炭素排出量を約22%削減することに成功しました。さらには、冷却塔補給水の使用量を50%削減しました。本システムの導入で再生可能エネルギーの活用と水資源の保全活動、両方を実現しました。

1980年代に培ったノウハウを活用して展開しています。さきほど説明した熊本の施設は2019年に完成し現在4年目ですが、非常に順調に運用しています。一方、周辺の環境に与える影響を調査するため、施設稼働後の3年間、地下水位や水温、地下水質のモニタリングを実施しています。2023年以降も継続する予定です。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

一滴でも多くの水を、一人でも多くの人へ

創業明治45年

株式会社 日さく

WATER&GEO-TECH ENGINEERS, NISSAKU

水に関わる取り組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- 1 貧困をなくそう
- 2 質の高い教育をみんなに
- 3 持続可能な消費と生産
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 気候変動に具体的な対策を
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 12 つくる責任、つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を

- ・ 創立以来、天然資源の1つである地下水の保全と持続的な利用に携わっています。
- ・ 海外の水道未普及地域での地下水開発事業を通じて、国際貢献の役割を担っています。
- ・ 水循環の健全性確保を追求し、それを維持すべく「地下水の上手な使い方」を推進しています。
- ・ 地下水取水後に地下へ還元することや、排水再利用技術の普及を図っています。
- ・ 社員一人ひとりが「水の大切さ」を心に留め、節水に取り組んでいます。